

手賀沼観察会 2022年3月13日(日) 参加13名、晴れ(気温約20℃)

R.カーソンあびこの会のお世話で、天王台駅前(我孫子市)に笑顔の面々が集う。

ガイドは地元愛(誇り)がいっぱい、島藤紘子さんたち。

南方向、手賀沼に向かい歩き出す。市街を抜け、緩い坂道を回りつつ、素敵な住まいのわきを下り、手賀沼がどんどん近づくと、そして農地が見える。畑の近くに広いお屋敷。満開の梅花、ゆずなどの果実、いろんな庭木に囲まれた農家、季節によりいろいろ収穫するだろう。



おしゃべりしながら“はけの道”を歩く。“はけ”って何?と呆けた自分。小金井市の実家(国分寺市至近)近くに、貫井神社があり、斜面(崖)から清水が湧き、池や流れを作る。そうであれだ、やっと思い出した。崖沿いの小道“はけの道”を。さらにもう一つ“我孫子のはけの道”どっちが本家でもいい。切れた脳の回線が1本修復できたのだから。はけの道を東へ、**滝前不動**に到着。とても由緒ある“滝前不動”だが手入れ途上か。滝はどこに? あちこち水が染み出ている。かなり以前には、**石組みの上の竜頭の口から一条の滝が、激しい音を立てていたらしい**。名工の作という不動堂の鰐口(わにぐち)をジャンと鳴らしたいところだが、その鰐口は今、機能せずとのこと。

滝前不動周辺にも**荒廃しかけた竹林**が目につく。他の植物や昆虫、野鳥など生物多様性を失わせる。景色を損ない害獣も招く。地元のボランティア(島藤さんら)の活動がなければ滝前不動も竹藪に没していたのではと思った。市も支援し、竹林の整備が徐々に行われているのは嬉しいこと。市民団体主導で、筍掘り、竹炭や竹細工、竹灯籠作り、イベントも数々、皆で楽しんでいるという。おしゃべりしながら、歩きながら、目ざとくセリやフキノトウを見つけ、摘んで持たせてくれた仲間たちにありがとう。夕べの酒の友。香りとおろ苦さを味わう。

広い自動車道を渡り、手賀沼“遊歩道”を西(手賀大橋)方向へ。満開の梅、木蓮、萌える柳葉、水鳥に小鳥、昆虫、みんな生き生きと。水中も同じだろう。あの色艶、さすがは国鳥の雉どの。足長のクイナ(湖上)、カワラヒワ、コガラが可愛い。かなり前、遊歩道の樹上すぐ上に、コイカルの姿に目を奪われた。大都会では、ヒヨドリ、ムクドリ、オナガが目につくが、いろんな小鳥たちが来やすいように意識的行動が足りないことを反省。手賀沼周辺の木を伐りすぎず、多様な生物が生活できるようにさらに配慮して欲しいと我孫子市民の声あり。市長さんよろしく願います。



やがて、芦原にオオヨシキリ(行々子)が渡ってくるだろう。私は未だにギョギョシと
やかましいその声を聞いたことがない。聞ける日が楽しみ。

(岩渕徹郎 記)